

# あーばんとく

平成14年12月号 (通巻 第64号)  
発行: こうべまちづくりセンター  
〒650-0022  
神戸市中央区元町通4丁目2番14号  
こうべまちづくり会館内  
電話 078-361-4523 ・ Fax 078-361-4546  
URL: <http://www.kobe-toshi-seibi.or.jp>

## 第17回神戸景観・ポイント賞 受賞作品が決まりました

昭和61年に創設された神戸景観・ポイント賞、今年は7件が受賞し、総受賞件数は145件となりました。  
今回の受賞内容は以下のとおりです。また、受賞式は11月20日に市役所で行なわれました。



### 神戸国際大学 (東灘区向洋町中9丁目)

受賞理由 <ウォーターフロントにおける新たな学び舎>

コンパクトにまとめられた白いタイルの学舎群とオープンスペースで構成される大学キャンパスが、南に隣接するプロムナードと調和して、ウォーターフロントにふさわしい景観を創出している。とくに、南西角のチャペルは六甲アイランド南部臨海地区のランドマークとなっている。  
施主 学校法人八代学院・設計 株式会社竹中工務店大阪本店

### 灘浜スポーツゾーンクラブハウス (東灘区御影浜町)

受賞理由 <工業地域のオアシス>

工業専用地域のなかにあって、市民に開放された緑豊かなスポーツ施設のクラブハウスである。既存のユーカリ林を背景に、線と面からなるシンプルで研ぎ澄まされたデザインのクラブハウスが、テラスや芝生広場などのランドスケープとともにやすらぎの空間をつくっている。  
施主 株式会社神戸製鋼所・設計 株式会社竹中工務店大阪本店



### 灘浜ガーデンバーデン (灘区新在家南町2丁目)

受賞理由 <公園と一体となった健康温浴施設>

公園のなかには施設の一部を埋め込み、周辺への圧迫感を軽減するとともに、幾何学的な構成となだらかに地形をつくる芝生によって、公園と一体となったランドスケープをつくりだしている。また蒸気エネルギーを利用したエコロジー建築としても注目される。  
施主 株式会社神戸製鋼所・設計 安藤忠雄建築研究所

### 商船三井ビル ライトアップ (中央区海岸通)

受賞理由 <旧居留地の夜間景観への貢献>

夜間のライトアップにより、近代洋風建築の第1級作品である当建築の特色あるフォルムとその重厚なディテールを浮かび上げさせ、旧居留地地区の夜間景観の向上に大きく貢献している。  
施主 株式会社商船三井・設計 村上デザイン事務所



### シーマークス舞子公園 (垂水区舞子台2丁目)

受賞理由 <舞子の松並木を再生>

北側道路沿いの敷地内に緑道を整備し、山陽電車舞子公園駅のアプローチとも一体となって、快適な歩行者空間を創り出している。この緑道には以前より当地で守られてきた松並木が移植され、舞子の地域イメージの継承に貢献している。  
施主 舞子駅北地区市街地再開発組合・設計 株式会社アール・アイ・エー神戸支社

### 灘、西郷会

受賞理由 <灘酒蔵地域のまちなみ再生に向けた取り組み>

地元酒造会社7社による灘、西郷会は震災で大きな被害を被った灘酒蔵地域のまちなみ再生に、住民、行政と協働して取り組んでおり、今回の酒蔵の道整備においても、和風の塀や道標の設置、建物修景など、道路と一体となった歴史的な面影を伝えるまちなみと歩行者空間の形成に寄与している。 団体 灘、西郷会



### 西出町自治協議会

受賞理由 <セルフビルドによるまちづくり拠点の創出>

地区の歴史・伝統を保存・継承し、さまざまな地域の情報を発信していくための施設であり、地元住民と学生、建築家、工務店の方などが協力して、設計から施工に携わり、小品ながら人々のまちづくりへの思いがこもった拠点をつくりだした。  
団体 西出町自治協議会

# 連載 「コンパクトタウンづくり」活動報告

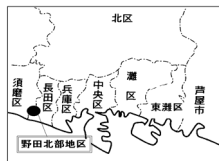
## 第8回 の だ ほ く ぶ 野田北部地区（神戸市長田区）

今回は、「あーばんとーく」などでおなじみの長田区野田北部地区をご紹介します。

### ■野田北部地区について

長田区の西端に位置する野田北部地区は、JR鷹取駅の南側一帯の12町丁にまたがる地区です。

大正時代から、2つのため池（双子池）を埋めたり、宅地を作ったり、大国公園の整備に住民が協力したりと、以前からまちづくりをひそかに(?)やっていた地区です。



現在のまちづくりのスタンスは、平成5年に発足した野田北部まちづくり協議会に端を発します。このときの課題は、利用するには荒廃していた大国公園の再整備でした。協議会は、自分たちが利用しやすい公園計画を行政に提案し、平成6年12月に再整備にこぎ付けました。しかし……。



その1ヶ月後に大震災発生。地区の一部は住宅が焼失、残った部分も倒壊が激しく、多大な被害を被りました。住民たちはいち早く自分たちで復興対策本部を設置。救助活動や安否確認などの活動を行いました。その後、地区の一部は、震災復興土地区画整理事業地区に指定され、また、残る部分は街並み誘導型地区計画や街なみ環境整備事業などによる復興に取り組みました。住民の復興への熱意は高く、区画整理は5年間で完了、地区でコミュニティに重点を置いた活動にシフトするというコミュニティ宣言など、積極的な地域活動と特異なアピールをしています。

### ■野田北ふるさとネット

区画整理や住宅の再建などハードな整備はほぼ終わってきた現状で、まず、課題となったのが、地域内にある色々な地域団体の各々活動がすべて把握できないことでした。この解決策として、「野田北ふるさとネット」を発足しました。



「野田北ふるさとネット」は、自治連合会やまちづくり協議会、長寿会など各種団体、どんぐりネットなどのボランティア団体、そして地域に関わりの

ある人々などの人と人・団体と団体同士をネットワークで結ぶ役割を担っています。

また、企画立案する「カンガエールサークル」や実際に活動する「ヤッテミールサークル」などを設置、ネーミングにも一工夫して楽しみながら活動しています。

### ■北区大沢地区との交流

「野田北ふるさとネット」の活動のうち、最近めだってきたのが北区大沢地区との交流です。大沢地区で毎年行われる「どろんこバレー」への参加、秋には「稲刈りの体験」、大沢地区の野菜を大国公園で販売する「大沢町産新鮮野菜の朝市」、など大沢の名前が徐々に野田北部の住民に浸透しつつあります。



12月1日にはイチゴとたまねぎを大沢町へ植え付けにいきました。子どもたちの参加も多く、5月の収穫時を楽しみにしています。

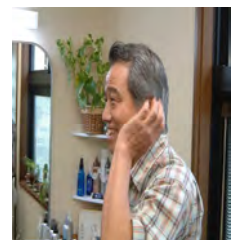


今年は収穫のみ、来年は植え付けと収穫と、交流の方法もステップアップさせています。

### ■野田北ふるさとネット

#### 代表の林 博司さんのおはなし

「野田北ふるさとネット」では、エコタウン活動やふれあい喫茶など多種多様な活動を住民のみなさんに紹介するために、「わがまち野田北かわらばん」を発行しました。情報を総合化して、一つの冊子にすることで、毎月のいろんな出来事や来月の予定が一目でわかるようになったと思っています。



また、大沢地区との交流では、あまり経験できない農作業を体験したり、野田とは違う農村の雰囲気を感じて味わうことで興味を持ってもらえればと願っています。来年の2月16日には、大沢地区の方々が野田北部を訪れることになっています。お世話になった分、お返ししようという気持ちで準備しています。

まあ、私自身は見守っているだけで、みんなよく動いてくれるので楽らくさせてもらってますけど。(笑)

## “カルチャー・ショック(!?)インドネシア”

### —その2「空間計画の現状と課題」—

空間計画という言葉は日本人にとって馴染みの薄い言葉かもしれませんが、英語では“Spatial Planning”になります。よくSpecial Planningと勘違いされて、どんな「特別な」計画なのかと尋ねられます。

インドネシアの空間計画は1992年制定の空間計画法で制度化されています。概念的には都市計画及び地域計画等を含んだ領域の広いもので、日本で言えば国土利用計画法、都市計画法、森林法等を含んだものになります。現状では以下の問題点が挙げられます。

#### 1. 「都市計画」の概念が定着していない

インドネシアの空間計画は国土レベルから村落レベルまでを同列に扱っており、国土開発と市街地整備さらには村おこしまでを同じ土俵で議論しているような状態です。まずこれ自体が大きな問題で、狭義の「都市計画」という概念が浸透していません。

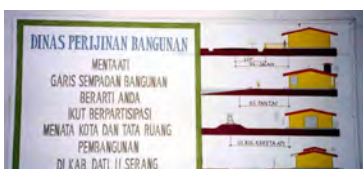
#### 2. 本来のグランドデザインになっていない

これまで、殆どの地方自治体が空間計画の策定を終えています。これが実際は現況追従型であったり、一方では実現が極めて困難なものであったり、そのコンセプトが明確ではありません。



空間計画を周知するための掲示板

さらに、空間計画は国や州の広域計画、そして地方自治体の開発計画や開発許可の基本となる役割を担いますが、この開発許可も官民の癒着により、許認可権の乱用がはびこり、良好な市街地形成のための規制が実質的には機能していません。また、空間計画そのものに対する一般の人々の認知度もまだまだ不十分です。



河川沿いなど、空間計画上、建築を不可とする場所の説明図(実際は多くの不法占拠者が…)

#### 3. 計画と事業が連携していない

インドネシアでは、これまで主に地方部で区画整理が面的整備の一手法として進められてきましたが、市街地改善が急務でその実施が最も必要な首都・ジャカルタでは実績がありません。また、KASIBA という日本の「新住法」に相当する、全面買収手法も検討され

ていますが、未だ実現には至っていません。つまり、大規模開発に関しては専ら民間の資金・ノウハウが頼りで、行政がリーダーシップを発揮できていません。

#### 4. 民意が反映されていない

これまでは計画策定時に住民の意見を反映するプロセスがなく、ともすると行政や資本家の都合だけで都市整備が進められてきた感があり、住民の不満は根強いものがあります。特にこれは喫緊の課題であるため、縦覧やまちづくり協議会など、住民参加を促進する制度構築に向けた指導が私の活動の中心になりました。

#### 5. 用地取得が困難になってきている

これまでの開発事業では、資本家やそれを後押しする軍の強引な用地買収が行われ、住民は不当に立退かざるを得ない例がありました。ことの善し悪しは別として、ある意味ではそれによりまとまった用地が確保できていたとも言えます。しかし、急速な民主化が進む中、住民の権利意識が強くなり、用地取得が困難になってきています。このため、民主的な手続きを経た上で事業に収用権を付与しなければ、近い将来、都市部での基盤整備は行き詰まることが予想されます。

#### 6. その他

空間計画は国そして州・県・市といった行政組織単位で策定されるため、JABODETABEK (ジャカルタ大都市圏。ジャカルタと周辺都市の頭文字からとった造語) のような接続する都市圏では広域的な観点から計画が策定されていないといった問題があります。

行政組織に目を向けると、空間計画・土地を担当する省庁は内務省、居住・地域インフラ省、土地庁など、多岐にわたり、省庁内外の情報交換・連携は少なく、いわゆる縦割りの状態になっています。また、中央政府と地方政府の連携が不十分なことも問題です。

これらの課題の解決にあたり、私は主として日本の都市計画制度の特長を紹介しながら、技術移転を行いました。しかし、実際は日本の制度も万全ではありませんし、インドネシアの風土や人々に受け入れられるのかといった問題もあります。結局、完璧な制度など存在しないので、我々プランナーは試行錯誤しながら「理想のまちづくり」を追求していく必要があります。今後もその努力を怠ってはならないと、インドネシアでの経験を通じて、逆に痛感させられた次第です。

前回に引き続き堅苦しい話が続きましたが、次回あたりから、インドネシアの街や人の様子等、楽しい話題を提供したいと思います(前号で誤植がありました。「県」のスペルはもちろん、prefecture ですの…)

若松謙一 (企画調整局総合計画課地域政策係長)

# 親子で歩こう! 平野のまち 開催

11月16日(土)の午後、地元の方のご協力も得て、例年になく盛況に開催されました。会場の平野会館の会議室は、参加者とスタッフであふれんばかりの状態でした。



地元の一北会長、郷土史家前田さんから「まちのお話」を聞いた後、グループに分かれてカメラ片手にまちに出ていきました。

今回は、まちの中にコマンド(まちを歩きながら石垣や見晴らしのよい場所からの写真を撮るなど)設定し、見つけたものを通してまちを知ってもらうという方法を取りました。中でも地元の人にお話を聞かないと答えがわからないコマンドでは、説明役の地元の方のお話を熱心に聞き、楽しい交流もできたようです。

また地元からの参加者も知らないことを発見したり、子供さんは写真を撮ることを楽しんだりとまち歩きを楽しみました。

まち歩きの後、コマンドの答え合わせと参加者が見つけたコマンドの写真を大きな地図に整理しました。また不思議なもの(発見)を発表して地元の人からそれが何なのかを解説していただき終わりました。

来年もまた楽しい企画を考えますのでご参加ください。

皆様からのアイデアもお待ちしていますので楽しい企画を思いついた方は、当センターまでご一報ください。



## まちづくり会館からのお知らせ

こうべまちづくり会館 1階オープンギャラリーの展示

12月 2日(月)~20日(金)	メロディブリッジコンテスト 優秀作品展示	(社)土木学会 神戸市建設局道路部計画課
渡ると音のする不思議な橋を展示しています		

こうべまちづくり会館 地階ギャラリーの予定

期 間	内 容・テ ー マ	主 催 者
12月 5日(木)~10日(火)	ぐるうぷ「華を描く」(水彩)	兼吉 淳二
12月12日(木)~17日(火)	吉田正博展(油彩)	吉田 正博
1月 9日(木)~14日(火)	神戸大学写真部展	神戸大学写真部

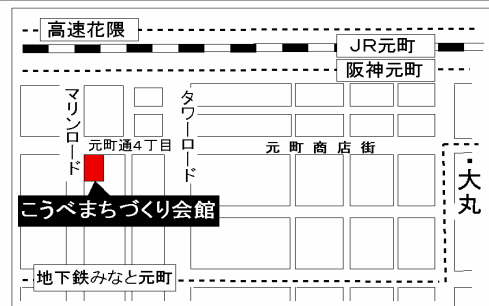
### 投稿のお願い

まちづくりセンターでは、「あーぱんとーく」が読者の皆様の少しでもお役にたてるように、まちづくり協議会が行う地域でのイベントなどの行事案内やまちづくり協議会の活動の記事を募集しています。

誌面の許す限り最大限取り上げていきたいと考えています。

ご希望によっては、取材にお伺いすることもできます。

まちづくりセンター(電話361-4523)までご一報ください。



最寄駅  
 地下鉄海岸線みなと元町駅西口から1分  
 高速花隈駅東口から3分  
 高速西元町駅東口から5分  
 JR・阪神元町駅西口から8分